

小児科学講座

| | |
|----------------------------|---------------|
| 教授：衛藤 義勝 | 先天代謝異常，小児内分泌学 |
| 教授：久保 政勝 | 小児感染免疫学 |
| 教授：伊藤 文之 | 先天代謝異常，小児内分泌学 |
| 教授：星 順隆 (輸血部に出自) | 小児血液腫瘍学，輸血学 |
| 教授：白井 信男 | 小児腎臓病学 |
| 教授：井田 博幸 | 先天代謝異常 |
| 教授：大橋 十也 (DNA 医学研究所に出自) | 先天代謝異常 |
| 准教授：玉置 尚司 | 小児感染免疫学 |
| 准教授：勝沼 俊雄 | 小児アレルギー学 |
| 准教授：和田 靖之 | 小児感染免疫学 |
| 准教授：宮田 市郎 | 小児内分泌学 |
| 准教授：浦島 充佳 (臨床研究開発室に出自) | 小児腫瘍学，臨床疫学 |
| 講師：若杉 宏明 | 小児感染免疫学 |
| 講師：藤原 優子 | 小児循環器病学 |
| 講師：加藤 陽子 | 小児血液腫瘍学 |
| 講師：斎藤 義弘 | 小児感染免疫学 |
| 講師：林 良寛 | 新生児学 |
| 講師：田知本 寛 | 小児アレルギー学 |
| 講師：小林 博司 | 先天代謝異常 |
| 講師：秋山 政晴 | 小児血液腫瘍学 |

教育・研究概要

I. 代謝研究班

代謝研究班は(1)先天代謝異常症を含む遺伝性疾患の病態解析，(2)遺伝子治療を中心とした高次医療技術を用いた疾病治療，(3)内分泌疾患の診断・治療および病態解析，(4)消化器疾患の診断・治療という4つの分野で研究を行っている。本年度は，(1)に関しては日本人 Fabry 病の遺伝子変異と臨床歴の解析を行い，女性ヘテロ症例では86.1%が Fabry 病に特徴的な症状を有するとともに心肥大のような重篤な症状も高率に認められることから，酵素補充療法の必要性を明確にした。(2)に関しては Fabry 病の酵素補充療法を行っていく上で最大の問題点である免疫反応に注目し，酵素に対する抗体の影響を検討した。(3)に関しては両側精索捻転に基づく精巣壊死により一側の精巣が腫瘍化，対側が退縮した新生児例の内分泌学的・病理学的検討および常染色体優性遺伝を呈する副甲状腺機能低下症家族例の遺伝子解析を行った。また，胎児甲状腺腫

性甲状腺機能低下症の胎内治療についても検討した。(4)に関しては後視的な多施設共同研究にて日本人小児における萎縮性胃炎とヘリコバクターピロリ感染との関連を明らかにした。

II. アレルギー研究班

アレルギー研究班では小児アレルギー疾患の病態を解明し，新たな治療戦略に役立てる，という基本理念を持って日々研究を進めている。喘息に関しては，病態面の臨床研究を推進してきた。6歳以下の喘息児における呼気中 nitric oxide が，児の臨床的喘息重症度と有意に相関することを突き止め，英論文文化した。この他，上気道ウィルス感染と喘息との関連に関する研究，喘息児呼気凝集液中の epidermal growth factor の解析等についても進めている。アトピー性皮膚炎の病態に関しては，アトピー性皮膚炎児を持つ家族の QOL 質問用紙 QPCAD (Quality of Life of Caregivers of Children with Atopic Dermatitis) を皮膚科との共同で開発し英文誌に投稿中である。

食物アレルギーについては，鶏卵・牛乳および穀類について抗原特異 IgE 値による症状出現率曲線に関する報告を行い，実地臨床に大きく貢献すると考えられる。

III. 神経研究班

本年度はヒトヘルペス・ウイルス 6 による急性脳症 (HHV-6 脳症) と West 症候群に焦点を当て報告した。まず私たちは，HHV-6 脳症の病態を類推するために MRI と SPECT 所見に基づき HHV-6 脳症を分類した。HHV-6 脳症は(1)前頭葉優位型，(2)びまん性型，(3)片側半球型，および(4)壊死性脳症型の4つに分類され得る。片側半球型は，脳血流が片側半球で低下し，病変は後頭優位の特徴がみられた。びまん性型は脳全体で血流が低下するが，前頭葉優位型と同様に病的所見は前頭葉優位の特徴が顕著であった。片側半球型のすべての患者が発熱初期と解熱期に片側けいれんが頻りに群発し，一過性の片麻痺をのこした。前頭葉優位型とびまん性型の患者は全般発作，二次全般発作の頻発，もしくは重積を認めた。HHV-6 脳症の画像所見に基づく分類は，それぞれ特有の臨床症状を呈していた。このことは，HHV6 の直接侵襲，血管炎，サイトカイン，および二次性免疫反応などの病態生理の相違点が HHV-6 脳症の各臨床病型の違いをもたらしている可能性を示唆している。

次に，我々は潜因性 West 症候群の発達予後に影

響する要素を研究するため、潜因性 West 症候群の 32 例に関して治療開始までの期間、脳波所見、および発作と発達予後を調査した。それらを正常発達群と遅滞群の 2 群間で比較した。治療開始までの期間は遅滞群で有意に長く、正常群では速やかに治療が開始されていた。また、遅滞群では前頭部における突発性異常波の再出現頻度が高かった。さらに遅滞群では、主発作の epileptic spasms 以外の他の発作型の出現が多くみられ、高頻度に焦点性てんかんに進展した。結論として、West 症候群の発達予後には治療開始までの期間の短縮が重要であると考えられた。さらに、突発性異常波が前頭部で再出現する頻度が高いことは、前頭部の機能的な異常が生じている可能性が高いことを反映しておりそれが発達予後に関連している可能性を示唆していた。

IV. 血液腫瘍研究班

基礎研究では、グアニンの豊富な DNA 配列における G-quadruplex 構造形成を介した抗腫瘍効果を白血病細胞株 K562 で確認し、そのメカニズムを明らかにした。さらに、EGFR 阻害剤の効果が EGFR 遺伝子変異により異なることを明らかにした。臨床研究では、上衣腫患者を長期に亘りフォローし、3 回の手術病理組織と剖検腫瘍組織における接着分子発現を検討し、N-cadherin の発現変化と髄液播種の関係を明らかにし、髄液播種のマーカーとなりうることを報告した。

V. 循環器研究班

小児科循環器研究班では、1) 先天性心疾患の胎児診断に関する研究、2) 先天性心疾患の診断・治療・術後長期管理に関する研究、3) 小児右心不全の基礎的研究、4) multidetector-row CT による先天性心疾患の画像診断の研究、5) 心疾患乳幼児に対する呼吸ガス分析を用いた呼吸循環動態の評価、6) 川崎病急性期治療法の研究、7) 先天性心疾患の呼吸機能評価、8) 学校心臓検診で発見される不整脈の管理・予後に関する研究、9) 川崎病の疫学、10) 小児循環器領域におけるマグネシウム動態の研究、11) マグネシウムによる小児期不整脈治療の研究、12) 先天性心疾患における分子生物学、13) 小児期心疾患における一酸化窒素の動態、14) 小児期心疾患の ANP/BNP の分泌動態、15) 先天性心疾患に対するカテーテル治療、16) 先天性心疾患における甲状腺機能異常、17) Fontan 術後の心予備能の研究、18) 先天性代謝異常の心病変と治療などをテーマとし、研究・診療に従事した。日常診療に追

われることが多く、研究がなかなか進まないのが現状である。学会発表は積極的に取り組むことができているが、論文化が今後の課題である。

VI. 感染免疫研究班

感染免疫研究班では、免疫不全症、細菌・ウイルス感染症、膠原病を対象として臨床に役立つ研究を行っている。免疫不全症では、慢性肉芽腫症を中心に診断と遺伝子治療の研究を行っている。感染症の分野では、呼吸器感染症サーベイランス、感染症の遺伝子診断、ワクチンの効果や安全性に関する研究を行っている。膠原病の分野では、若年性特発性関節炎や全身性エリテマトーデスなどの疾患活動性や予後に関する研究ならびに難治例に対する生物学的製剤による治療効果についての研究などを行っている。

VII. 新生児研究班

新生児研究班では新生児の脳低温療法、呼吸管理、循環、哺乳運動および栄養に関する研究を行っている。本年度は慈恵医大母子センターで出生した 158 例の極低出生体重児を PDA 治療群 54 例と PDA 自然閉鎖群 104 例の 2 群に分け、PDA のリスク因子について検討した。その結果、在胎週数とサーファクタント投与がリスク因子として検出された。更に出生体重、Apgar score 1 分值、人工呼吸器管理、RDS、赤血球数に関して 2 群間で有意差が認められた。

「点検・評価」

代謝研究班、アレルギー研究班、神経研究班、血液腫瘍研究班はいずれも本年度は 4~5 編以上の英語論文を発表しており、高いモチベーションを維持しつつ研究に取り組む姿勢は評価できる。今後は各研究班とも更なる研鑽を積み、インパクトファクターの高い英文誌 (5 点以上) への publication を増やしていきたい。循環器研究班は専門医療における臨床的貢献度は高く評価されるが、研究面での業績に関してはより一層の努力が望まれる。学会発表の内容を如何にして論文化まで展開していくかが今後の課題といえよう。感染免疫研究班では基礎的・臨床的研究に関する質の高い英語論文の発表が出てきており、更なる躍進が期待される。新生児研究班および腎臓研究班に関しては若い力のこれからの活躍に期待したい。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Ohashi T, Sakuma M, Kitagawa T, Suzuki K, Ishige N, Eto Y. Influence of antibody formation on reduction of globotriaosyl-ceramide (GL-3) in urine from Fabry patients during agalsidase beta therapy. *Mol Genet Metab* 2007; 92(3) : 271-3.
- 2) Miyata I, Yoshikawa H, Ikemoto M, Eto Y. Right testicular necrosis and left vanishing testis in a neonate. *J Pediatr Endocrinol Metab* 2007; 20(3) : 449-54.
- 3) Miyata I, Abe-Gotyo N, Tajima A, Yoshikawa H, Teramoto S, Seo M, Kanno K, Sugiura K, Tanaka T, Eto Y. Successful intrauterine therapy for fetal goitrous hypothyroidism during late gestation. *Endocr J* 2007; 54(5) : 813-7.
- 4) Miyata I, Yoshikawa H, Kurokawa N, Kanno K, Hayashi Y, Eto Y. A neonatal case of autosomal dominant hypoparathyroidism without mutation of the CASR gene. *Clin Pediatr Endocrinol* 2008; 17(1) : 17-22.
- 5) Kobayashi M, Ohashi T, Sakuma M, Ida H, Eto Y. Clinical manifestations and natural history of Japanese heterozygous females with Fabry disease. *J Inherit Metab Dis* 2008 Jan 21. [Epub]
- 6) Hamano S, Yoshinari S, Higurashi N, Tanaka M, Minamitani M, Eto Y. Regional cerebral blood flow and developmental outcome in cryptogenic West syndrome. *Epilepsia* 2007; 48(1) : 114-9.
- 7) Hamano S, Yoshinari S, Higurashi N, Tanaka M, Minamitani M, Eto Y. Developmental outcomes of cryptogenic West syndrome. *J Pediatr* 2007; 150(3) : 295-9.
- 8) Yoshinari S, Hamano S, Minamitani M, Tanaka M, Eto Y. Human herpesvirus 6 encephalopathy predominantly affecting the frontal lobes. *Pediatr Neurol* 2007; 36(1) : 13-6.
- 9) Matsumoto K, Terakawa M, Fukuda S, Saito H. Rapid and strong induction of apoptosis in human eosinophils by anti-CD30 mAb-coated microspheres and phagocytosis by macrophages. *Int Arch Allergy Immunol* 2007; 143(Suppl. 1) : S60-7.
- 10) Komata T, Söderström L, Borres MP, Tachimoto H, Ebisawa M. The predictive relationship of food-specific serum IgE concentration to challenge outcomes for egg and milk varies by patient age. *J Allergy Clin Immunol* 2007; 119(5) : 1272-4.
- 11) Tachimoto H, Ebisawa M. Effect of interleukin-13 or tumor necrosis factor- α on eosinophil adhesion to endothelial cells under physiological flow conditions. *Int Arch Allergy Immunol* 2007; 143(Suppl.1) : 33-7.
- 12) Tachimoto H, Ebisawa M, Bochner BS. CCR3-active chemokines influence eosinophil adhesion to endothelial cells under static and flow conditions. *Clin Exper Allergy Rev* 2007; 7(1) : 1-4.
- 13) Akiyama M, Yamada O, Agawa M, Yuza Y, Yanagisawa T, Eto Y, Yamada H. Effects of prednisolone on specifically expressed genes in pediatric acute B-lymphoblastic leukemia. *J Pediatr Hematol Oncol* 2008; 30(4) : 313-6.
- 14) Akiyama M, Kobayashi N, Fujisawa K, Eto Y. Disseminated varicella-zoster virus infection in a girl with T-lineage acute lymphoblastic leukemia. *Pediatr Blood Cancer* 2007; 48(7) : 716.
- 15) Yuza Y, Glatt KA, Jiang J, Greulich H, Minami Y, WooMS, Shimamura T, Shapiro G, Lee JC, Ji H, Feng WW, Chen TH, Yanagisawa H, Wong KK, Meyerson M. Allele-dependent variation in the relative cellular potency of distinct EGFR inhibitors. *Cancer Biol Ther* 2007; 6(5) : 661-7.
- 16) Yokoi K, Akiyama M, Yanagisawa T, Fujigasaki-Takahashi J, Yokokawa Y, Terao-Mikami Y, Fukuoka K, Fujisawa K, Nakazaki H, Oi S, Eto Y, Yamada H. Sequential analysis of cadherin expression in a 4-year-old girl with intracranial ependymoma. *Childs Nerv Syst* 2007; 23(2) : 237-42.
- 17) Terao Y, Akiyama M, Yuza Y, Yanagisawa T, Yamada O, Yamada H. Antitumor activity of G-quadruplex-interactive agent TMPyP4 in K562 leukemic cells. *Cancer Lett* 2008; 261(2) : 226-234.
- 18) Kobayashi S, Murayama S, Tatsuzawa O, Koinuma G, Kawasaki K, Kiyotani C, Kumagai M. Successful treatment with micafangin to X-SCID having high level of serum immunoglobulins with aspergillus pneumonia. *Eur J Pediatr* 2007; 166(3) : 207-10.
- 19) Kawai T, Choi U, Cardwell L, DeRavin SS, Naumann N, Whiting-Theobald NL, Linton GF, Moon J, Murphy PM, Malech HL. WHIM syndrome myelokathexis reproduced in the NOD/SCID mouse xenotransplant model engrafted with healthy human stem cells transduced with C-terminus-truncated CXCR4. *Blood* 2007; 109(1) : 78-84.

- 20) Kawai T, Choi U, Cardwell L, DeRavin SS, Naumann N, Whiting-Theobald NL, Linton GF, Moon J, Murphy PM, Malech HL. Diprotin A Diprotin A infusion into nonobese diabetic/severe combined immunodeficiency mice markedly enhances engraftment of human mobilized CD34⁺ peripheral blood cells. *Stem Cells Dev* 2007; 16(3): 361-70.
- 21) Nagashima T, Kobayashi M, Teramoto S, Okano E, Yokoi T, Shimizu M. Analysis of very low birth weight infants born at the Jikei University School of Medicine Women's and Children's Medical Center: Focus on patent ductus arteriosus analysis. *Jikeikai Med J* 2007; 54(1): 1-9.
- 22) 栗原まな. 【発障障害領域における国際生活機能分類 ICF の活用】 発達障害領域における国際生活機能分類 ICF の活用 医療面への活用. *発達障害研* 2007; 29(4): 228-34.
- 23) 海老澤元宏. 食物アレルギーの疫学 (我が国と諸外国の比較). *アレルギー* 2007; 56(1): 10-7.
- 24) 阿部法子, 勝沼俊雄, 赤司賢一, 柴田 淳, 山田 節, 衛藤義勝. 乳幼児気管支喘息患者に対する fluticasone propionate 投与の成長への影響. *日小児アレルギー会誌* 2007; 21(3): 281-8.
- 25) 加藤陽子, 前田美穂, 島崎晴代, 新井 心, 有瀧健太郎, 菊池 陽, 後藤晶子, 小林美由紀, 杉田憲一, 恒松由記子, 徳山美香, 福永慶隆, 藤沢康司, 別所文雄, 星 順隆, 細谷亮太, 柳澤隆昭, 森本 克, 土田昌宏. 血液悪性腫瘍医の視点からみた本邦における小児血液悪性腫瘍患児に対する終末期緩和医療の現状と問題点. *小児がん* 2007; 44(2): 124-9.
- 26) 藤原優子, 大橋十也, 小林正久, 井田博幸, 衛藤義勝. Fabry 病の心臓変に対する酵素補充療法の効果: 男女間での臨床的経過の検討. *慈恵医大誌* 2007; 122(6): 295-304.
- 27) 星野健司, 小川 潔, 菱谷 隆, 平田陽一郎, 斎藤亮太, 金澤貴保, 城 宏輔. 小児肺動脈性肺高血圧症に対する肺移植の問題点. *埼玉医会誌* 2007; 41(4): 286-91.
- (増刊): 215-8.
- 4) 井田博幸. 【小児中枢神経系疾患の画像診断 2008】 疾患別アトラス編 代謝, 変性, 脱髄疾患 Gaucher 病. *小児内科* 2007; 39(増刊): 497-8.
- 5) 大橋十也. 【予防接種 Q&A】 要注意患者への接種代謝異常 新生児マススクリーニングで発見された病気の子どもたちへの予防接種のなかで, 避けたほうがよいものがありますか. *小児内科* 2007; 39(10): 1549-50.
- 6) 吉成 聡, 浜野晋一郎. HHV-6 の中枢神経症状 脳炎・脳症を中心に. *日小児会誌* 2007; 111(8): 1013-26.
- 7) 栗原まな. Pediatric Rehabilitation 改め Developmental Neurorehabilitation. *Jpn J Rehabil Med* 2007; 44(4): 242.
- 8) Saito H. Allergy and hypersensitivity: airway inflammation and remodeling. *Curr Opin Immunol* 2007; 19(6): 674-5.
- 9) 斎藤博久. マスト細胞と呼吸器疾患. 医のあゆみ 2007; 別冊 (呼吸器疾患 state of arts Ver. 5): 52-4.
- 10) 勝沼俊雄, 大谷ゆう子. 【新生児・乳幼児健診で遭遇する問題点と対応】 問題点と対応 皮膚・皮膚アレルギー. *小児診療* 2007; 70(3): 453-5.
- 11) 海老澤元宏. 【アレルギーのすべて】 アレルギーにはどんなものがあるのか 食物アレルギー. *からだの科学* 2007; 252: 61-5.
- 12) 小川 潔. 【循環器症候群 その他の循環器疾患を含めて】 不整脈 小児の不整脈. *日臨* 2007; 別冊 (循環器症候群 I): 347-50.
- 13) 斎藤義弘. 【症候からみた小児の診断学】 皮膚・爪の異常 発熱を伴う皮疹. *小児診療* 2007; 70(増刊): 295-9.
- 14) 栗原まな. 【脳性麻痺のリハビリテーション】 脳性麻痺の診断と評価. *Med Rehabil* 2007; 87: 1-7.

III. 学会発表

II. 総 説

- 1) 豊田 茂. 【小児の胃炎, 消化性潰瘍, Helicobacter pylori 感染症】 胃炎・消化性潰瘍 小児の特徴と疫学. *小児内科* 2007; 39(3): 420-3.
- 2) 豊田 茂. 【肝・消化管疾患の新しい臨床】 消化管疾患 腸重積症の診断と整復法. *小児診療* 2007; 70(6): 975-9.
- 3) 井田博幸. 【症候からみた小児の診断学】 乳児特有の症候 フロッピーインファント. *小児診療* 2007; 70
- 1) Eto Y. Recent advances of the treatment for Genetic diseases. *Asian Congress of Pediatrics*. Colombo, Feb 2007.
- 2) Eto Y. New strategy for the treatment of Genetic disease. *The 24th International Congress of Pediatrics*. Athens, Sept.
- 3) 豊田 茂, 小林尚明, 布上孝志, 田邊行敏, 辻原佳人, 根本聡美. ノロウイルス感染症の関与が示唆された 2 症例. 第 3 回日本小児消化管感染症研究会. 大阪, 2 月.
- 4) Ida H. Genetic and clinical characteristics of Japanese patients with Gaucher disease. *The 1st China-Japan LSD Meeting*. Shanghai, May.

- 5) Ohashi T, Kitagawa T, Ishige N, Suzuki K, Sakuma M, Kobayashi M, Eto Y. Influence of antibody formation to enzyme replacement therapy for Fabry disease. The 11th International Congress of Inborn Errors of Metabolism. Hamburg, Sept.
- 6) 宮田市郎, 吉川秀樹, 竹内瑞穂, 東條克能, 田嶋尚子, 衛藤義勝, Thierry B. 新規 S179R Pit-1 変異における新たな機能解析. 第 80 回日本内分泌学会学術総会. 東京, 6 月.
- 7) Kobayashi M, Ohashi T, Sakuma M, Ida H, Eto Y. Clinical manifestations and natural history of Japanese heterozygous females with Fabry disease. Annual Meeting of Pediatric Academic Societies. Toronto, May.
- 8) 浜野晋一郎, 日暮憲道, 小一原玲子, 吉成 聡, 田中 学, 南谷幹之, 菊池健二郎, 衛藤義勝. 潜因性 West 症候群の発達に関与する因子. 第 110 回日本小児科学会学術集会. 京都, 4 月.
- 9) 南谷幹之, 浜野晋一郎, 田中 学, 吉成 聡, 日暮憲道, 衛藤義勝. eZIS による自閉症児の脳血流の検討. 第 110 回日本小児科学会学術集会. 京都, 4 月.
- 10) 吉成 聡, 浜野晋一郎, 南谷幹之, 田中 学, 日暮憲道, 安部信平, 衛藤義勝. Human Herpesvirus 6 脳症の頭部 MRI, 脳血流 SPECT 所見による臨床病型の分類. 第 49 回日本小児神経学会総会. 大阪, 7 月.
- 11) 菊池健二郎, 浜野晋一郎, 吉成 聡, 田中 学, 南谷幹之, 衛藤義勝. Epilepsia partialis continua によると思われる一過性片側大脳半球腫大を呈した Hunter 症候群の 1 男児例. 第 49 回日本小児神経学会総会. 大阪, 7 月.
- 12) Katsunuma T. Clinical usage of long acting β_2 agonist and tulobuterol patch in pediatric asthma. Korea-Japan Joint Asthma Meeting. Seoul, Jun.
- 13) Ebisawa M, Soderstrom L, Ito K, Shibata R, Sato S, Tanaka A, Borres M, Morita E. Omega-5-gliadin allergen specific IgE antibodies are clinically useful in the diagnosis of food allergy. World Allergy Congress 2007. Bangkok, Dec.
- 14) Ohya Y, Katsunuma T, Shibata A, Fujisawa T, Chang-Keun K, Eto Y. Efficacy and safety of intravenous aminophylline infusion in children with acute exacerbation of asthma increased. ATS 2007. San Francisco, May.
- 15) 田知本寛, 佐藤さくら, 小俣貴嗣, 今井孝成, 富川盛光, 宿谷明紀, 海老澤元宏. iA net システムを用いた小児食物アレルギー患者の実態調査. 第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会. 横浜, 11 月.
- 16) 秋山政晴, 湯坐有希, 横井健太郎, 横川裕一, 寺尾陽子, 藤沢康司, 柳澤隆昭. T-lymphoblastic lymphoma に対する維持療法中に発症した acute monoblastic leukemia (AML-M5a) の 1 例. 第 69 回日本血液学会・第 49 回日本臨床血液学会合同総会. 横浜, 10 月.
- 17) 湯坐有希, 秋山政晴, 藤ヶ崎純子, 河野 緑, 千葉諭, 柳澤隆昭, 衛藤義勝. 急速に進行する全身糸状真菌感染を合併した Burkitt リンパ腫の 1 女児例. 第 69 回日本血液学会・第 49 回日本臨床血液学会合同総会. 横浜, 10 月.
- 18) Terao-Mikami Y, Akiyama M, Yuza Y, Yamada O, Yamada H. Antitumor-activity of G-quadruplex-interactive agent TMPyP4 in K562 leukemic cells. AACR-NCI-EORTC International Conference Molecular targets and cancer therapeutics. San Francisco, Oct.
- 19) Fujiwara M, Ohashi T, Kobayashi M, Ida H, Eto Y. The cardiac effects of enzyme replacement therapy for Fabry Disease: Comparisson between female and male. International Symposium of Lysosomal Strage Disease. Chiba, Nov.
- 20) Urashima T, Zhao M, Wagner R, Fajardo G, Farahani S, Quertermous T, Bernstein D. Molecular and physiologic characterization of RV remodeling in a murine model of mild, moderate and severe pulmonary stenosis. American Heart Association Scientific Session 2007. Orlando, Nov.
- 21) 和田靖之, 高橋久美子, 南波広行, 久保政勝, 衛藤義勝. 過去 5 年間に分離された肺炎球菌, インフルエンザ菌の耐性遺伝子解析について. 第 110 回日本小児科学会学術集会. 京都, 4 月.
- 22) Kawai T, Choi U, Liu P, Whiting-Theobald NL, Linton GF, Malech HL. Transient expression of WHIM-type mutant CXCR4 human hematopoietic stem cells mediated by integration defective lentivirus vector enhances engraftment in the NOD/SCID mouse xenograft model. American Society of Gene Therapy 10th Annual Meeting. Seattle, May.
- 23) 清水正樹, 大野 勉, 鬼本博文, 宮林 寛, 長澤真由美, 藤澤ますみ, 川畑 建, 河野淳子. HIE に対する新生児脳低温療法の臨床的検討. 第 43 回日本周産期・新生児医学会総会. 東京, 7 月.

IV. 著 書

- 1) 斎藤博久. 喘息の遺伝に関する疫学. 工藤翔二監修, 大田 健, 一ノ瀬正和編. 気管支喘息のすべて: 呼吸器 common disease の診療. 東京: 文光堂, 2007. p. 80-3.

- 2) 衛藤義勝, E. 代謝性疾患: 3. Fabry 病の酵素療法はどのくらい有効か. 岡本幸市, 棚橋紀夫, 水澤英洋編. EBM 神経疾患の治療 2007-2008. 東京: 中外医学社, 2007. p. 279-83.
- 3) 浜野晋一郎, V. 神経・筋: 3. けいれん重積の治療プロトコール: ミダゾラムとフェニトインの位置づけは? 五十嵐隆, 石井正浩, 滝田順子, 平岩幹男, 水口雅, 横田俊平, 横谷 進, 渡辺とよ子編. EBM 小児疾患の治療 2007-2008. 東京: 中外医学社, 2007. p. 182-7.
- 4) 田知本寛, I. 食物アレルギーを理解する: 4. 食物アレルギーのメカニズム. 斎藤博久監修, 海老澤元宏編. 小児アレルギーシリーズ: 食物アレルギー. 東京: 診断と治療社, 2007. p. 34-8.

V. その他

- 1) 衛藤義勝. 小児救急のあり方に関する研究: 平成 18 年度総括研究報告書: 厚生労働科学研究費補助金 医療安全・医療技術評価総合研究事業. 2007.

皮膚科学講座

| | |
|------------|--|
| 教授: 中川 秀己 | アトピー性皮膚炎, 乾癬, 色素異常症 |
| 教授: 上出 良一 | 光線過敏症, アトピー性皮膚炎, 皮膚悪性腫瘍 |
| 教授: 本田まりこ | 皮膚ウイルス感染症 (ヘルペスウイルス感染症, ヒト乳頭腫ウイルス), 性感染症 |
| 准教授: 石地 尚興 | 皮膚リンパ腫, ヒト乳頭腫ウイルス感染症, 皮膚アレルギー学 |
| 講師: 太田 有史 | 神経線維腫症 |
| 講師: 竹内 常道 | 光皮膚科学 |
| 講師: 川瀬 正昭 | ヒト乳頭腫ウイルス感染症 |

教育・研究概要

I. 乾癬

乾癬治療の選択肢が増えてきている。ステロイド外用剤と活性型ビタミン D3 製剤を用いた外用療法は治療の基本となる。内服療法としてシクロスポリン MEPC, エトレチネートがあり, さらにスキンケア外来では全身照射型の Narrow-band UVB を設置し, 現在, 積極的に光線療法を行っている。

治療法の選択には疾患の重症度に加え, 患者の QOL の障害度, 治療満足度を考慮することが重要である。そのために我々が作成した乾癬特異的 QOL の評価尺度である Psoriasis Disability Index の日本語版を応用し, 患者 QOL の向上に役立てている。また, 乾癬患者に多いとされるメタボリック症候群に対しても精査を行い, 高血圧, 高脂血症の治療も合わせて行っている。また, 効果の高いと考えられる生物学的製剤である完全ヒト型化およびキメラ型の TNF- α 抗体, IL-12/23p40 抗体の臨床試験を実施している。

乾癬患者を対象として年に 2 回, 東京地区乾癬学習懇談会を医学部一号館講堂で開催している。

II. アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎にはフィラグリン遺伝子の多型などによるバリア機能異常, Th2 に偏りがちなアレルギーの問題, 痒みと搔破の “itch scratch cycle”, 精神的ストレスなどの心理社会的側面とさまざまな問題が関与している。従ってアトピー性皮膚炎患者の生活の質 (QOL) を向上させるには多方面からのアプローチが必要になる。当科では EBM に則った